

# 十勝毎日新聞

発行所  
十勝毎日新聞社  
〒080 帯広市東1条南8丁目  
電話=編集②2121、広告  
②2323、総務・販売②2222  
©十勝毎日新聞社 1987

## ★アメリカ★ ★宇宙開発最前線★

人、八十、エリヤと五十

<5>

万人を抱える。約三十数年の間、ちょうど十勝の一町村が帯広市レハルの市に発展したことになる。先端産業が結集した宇宙開発、産業の経済効果がいかに大きいのか、人口の推移をみただけで理解できる。

確かに郊外には四百軒(千二百軒まで利用可能)に及びサーチ・パークが形成され、そのタワーズ、ロッキード、ロケットウェル、エセックスなど航空宇宙やソフトウェアなど一流のハイテク企業が進出、研究、開発を行っている。マシヤル・スペース・フライト・センターでは約三千人の

前にもそれを発行していた。ここに住む約四十万人の人はロスホリタン(国際)である。聞いていこう。このヒデオは企業誘致のためのものであるのがわかった。日本の企業まで誘致しようというのだ。

私は十勝の航空宇宙産業基地構想を同様に説明した。すると「まずマチのり

奮大も宇宙実験を。同氏は「三十年前アラバマ大ハンツビル支部はNASA(マーシャルSFC)で働く民間を含むエンジニアの予期せぬ大物の助っ人」で心強かった。

実はこの時、自ら通訳をかっててくれたのが台湾の港僑修(じゅしゅう)博士だ。父が台湾、母が日本人で大阪大を卒業している。予期せぬ大物の助っ人」で心強かった。

ハンツビルには三泊四日、やや時間ゆとりがあった。そこで、マーシャル宇宙飛行センターが地域にどんな波及効果を及ぼすか、一ちよとハンツビルは十勝の人口規模に近いので、調べることにした。

た。が、フォン・ブラウン博士らドイツ宇宙チームがここでロケットをつくり始め(一九四九年)、宇宙産業が発展してきた。一九六九年月着陸が成功した時、宇宙計画のかなりの部分が一時ヒューストンに移され、そのころは落ち込んだが、NASAの科学者が個人的にここで始めたビジネスや関連したエレクトロニクス産業なども芽生え、急成長している」と説明した。

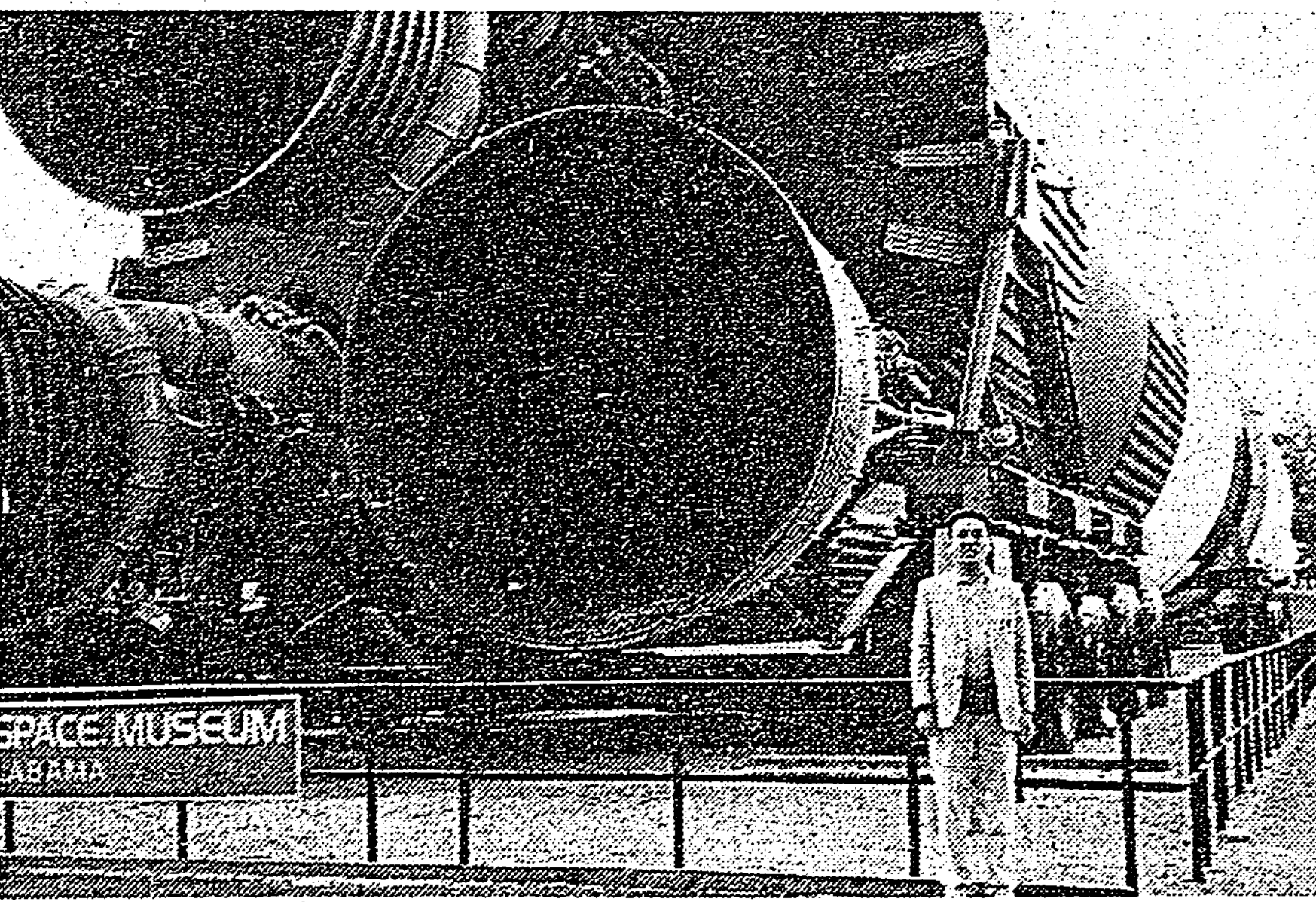
「これが一番痛が痛い問題だ」といふ。同氏は私を別室に招き、テレビビデオのスイッチを入れた。何が始まるのかと思つたら、なんとハンツビルのマチの紹介が日本語のナレーションで流れてきた。ハンツビルはハイテクの言葉がもてはやされる以

「私が「帯広畜産大があの」で説明すると、即それなら畜産を核に、ロケットを使った材料実験や毛利博士のやっているシャトル内、スペースステーション内で行う無重力での実験の基礎研究をやってはどうか。大学の役割は大きいよ」と答えが返ってきた。

「小野寺 裕記者

### 経済波及効果

農業のマチ一変  
ハンツビル商業会議所。フォン・ブラウン博士を記念するフォン・ブラウン・シビックセンター近くにあり立派な建物だ。ここでジム・ライカー経済担当副会長に会った。同氏は「ハンツビル帯はゴットンを中心とした農業のマチだ。周辺を入れると二十二万



全長110mのサターンV型と記者(ハンツビル)

## 10倍になった人口 ハイテク企業続々進出

技術者を雇用しているが、これらハイテク企業だけで一万五千人の技術者を抱えている。

マーシャルSFC、スペース&ロケットセンターがあることで技術者、観光客などさまざまな人が出入り

「これが一番痛が痛い問題だ」といふ。同氏は私を別室に招き、テレビビデオのスイッチを入れた。何が始まるのかと思つたら、なんとハンツビルのマチの紹介が日本語のナレーションで流れてきた。ハンツビルはハイテクの言葉がもてはやされる以

「私が「帯広畜産大があの」で説明すると、即それなら畜産を核に、ロケットを使った材料実験や毛利博士のやっているシャトル内、スペースステーション内で行う無重力での実験の基礎研究をやってはどうか。大学の役割は大きいよ」と答えが返ってきた。

「小野寺 裕記者